

サイエンス講演会 田山 聡先生からの ロケット打上げのエピソード

今年の3月にサイエンス講演会でご講演いただいた卒業生の田山 聡様（本校7期生）からロケット打上げ時のエピソードをいただきました。

今から約30年前、私の30歳の誕生日はちょうどH2ロケット3号機の打上日でした。僕は当日ハワイの真南・赤道直下のクリスマス島（ハワイからの飛行機で約3時間。週1便でポリネシア人が住んでいる太平洋ど真ん中の小さな絶海の孤島）で種子島から打上げられたロケットが飛んでくるのを待ち構えていました。（ロケットはクリスマス上空で人工衛星を分離することが多いです。打上げられたロケットは種子島、小笠原などの地上局に電波で、今第1段を切り離れたとか、エンジンの温度は何度とか、現在位置などロケット機体情報を送ってきます。）H2ロケット3号機に搭載された人工衛星は気象衛星ひまわり5号で、我々はこの打上げに失敗すると、運用中のひまわり4号の寿命があと数ヶ月で尽きてしまい、天気予報が出来なくなるという大きな重圧をかかえていました。

当時は種子島とクリスマス島間は電話とFAXしかなくて、クリスマス島で受信したロケットの生データを種子島に送る手段がありませんでした（地球は丸いので、ロケットからの電波は直接種子島には届きません）。

従ってクリスマス島に出張に行っている僕達が、人工衛星分離の信号（分離前は0、分離後は1）を目視で確認し、電話口で「人工衛星分離！」と叫びます。するとその声を聴いた種子島の管制室が拍手で湧き上がり、報道陣に成功が伝えられ、日本中に「ロケット打上成功。天気予報継続可能」とニュースが流れるしくみなので、みんな固唾を飲んで僕の声を待っています。

僕は見ている信号は正しい信号（ロケットは数千項目の信号を送ってきます。）か、0～1に変化したのは見間違えていないかなど、プレッシャーと戦っていました。無事打上げが成功した後すぐさま、種子島、小笠原の運用者達と電話で反省会があります。反省会が終わった時、種子島の管制指揮者から「田山さん、30歳の誕生日おめでとう」と言われ、種子島、小笠原のみんなが一斉に「おめでとうー。おめでとうー。」と言ってくれました。同時にクリスマス島で受信装置の実操作をしているアメリカ人達（僕は英語が出来ず今のような翻訳機も無かったので辛い出張でした。）が「君の為にケーキを焼いたんだ。おめでとう。ハッピーバースデー」と言って渡してくれました。

打上げ当日を迎える前もクリスマス局の受信装置が故障したりと大変だったので、プレッシャーから解放された安堵感もあり、ロケット打上ミッション達成感と共に仲間との協力も感じられて、非常に嬉しい思い出深い30代のスタートでした。

今年3月のサイエンス講演会では大学入試や苦手科目の英語への挑戦、大学での学び、そしてJAXAへの挑戦、日本のみならず世界で、そして宇宙へとロケット開発に携わられたエピソードを伺い、大先輩の活躍に胸が熱くなりました。是非、現南高校生も田山様からいただいた「諦めない力」を信じて未来へ向けて頑張ってもらいたいと思います。